

科目名 プレゼンテーション技術演習（二）（2単位）

担当者氏名 渡邊 研一、松原 創

◆学習・教育目標

大学院学生には、さまざまな研究集会で自己の研究成果を発表する機会がある。国際研究集会では英語で発表することが求められる。日本語による発表も英語による発表もその内容は科学でなので、正確な科学的表現をすることが共通の基礎となる。口演では口語体の、ポスターやスライド内では文語体の表現がそれぞれ必要であり、使用できる語数も異なる。したがって、発表の趣旨を正確に伝えるために、それぞれの機会に応じた補助的技法を施すことが必要になる。本科目では、そうした一連の能力を演習形式で高めることを目指す。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

学術成果発表	口頭発表（講演）	ポスター発表	水圏科学の学術用語
和製英語	Accent と Intonation	Synonym	

◆授業の進行等について（単位制度に基づく授業の進行予定・内容）

回数	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1-8	国際学会での効果的な発表	自分の研究成果を伝えるためには、かたちにすることが必要不可欠である。その方法としては、口頭・ポスター・論文発表などがある。本講義では、自主性・創造性・協調性を高め、潜在能力を引き出し、国際学会で効果的に口頭・ポスター発表の仕方を学んでもらう。	文語英語にしても口語英語にしても、日本人が英語を学ぶときの最も重要な基礎は日本語である。正しい日本語に照らして自己の日本語の欠点を、予め認識しておくことが望まれる。
9-15	国際学会での英語による議論	日本人が話す英語には、深刻な弱点がいくつかある。しかし、理由が分かれば、その克服は可能である。子供のときから躰けられた、語勢が弱い言葉の選択、論点を不鮮明にして相手の好意的な理解に期待するといった意思表明法は、国際的なコミュニケーションでは最大の弱点であり、中等教育で受けた頑なな文法・語法にこだわると会話が難しくなり、無節操に氾濫し続けるカタカナ語、その略語、和製英語などが滑稽な英会話の原因になることなどを理解できれば、進歩は約束される。この授業では、そうした弱点の実例と克服の方法について、演習形式で学び、考える。	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

授業の進捗に応じて必要な資料を配布する。

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

コミュニケーションに関する一般的な本(特に指定しない)

◆評価の方法（レポート・小テスト・定期試験・課題等のウェイト）

授業時間中にみられる進歩の程度による

◆その他受講上の注意事項

プレゼンテーション技術演習(一)を受講しておくこと。